

この聖書箇所は預言者エレミヤの初期預言が巻物に書き記された事情を記している重要な箇所です。エレミヤがこれらの預言を書き記した時代は、ヨヤキム王の治世第4年の前605年のことで、当時の大国・新バビロニア帝国のネブカドネツアル王が王位を継承した年でもあります。ネブカドネツアル王は世界を支配してきたアッシリア帝国を撃破し、メソポタミアでの支配体制を確立しました。エレミヤはこの歴史的な大転換の意味を自覚し、ユダの国の将来に対する指針を告げようとしたのです。

その目的のためにエレミヤは、召命以来23年間にわたって語り続けてきた預言の言葉を巻物に記すように神から命じられます。エレミヤは語ってきた預言を口述筆記させて、それをエルサレム神殿の公衆の面前で朗読させたのでした。

では、もう一方の覇権国家であるエジプトはどうしていたのでしょうか。

エジプトのネコ2世はシリア・パレスチナを支配圏においていました。パレスチナで勢力を確立したいネコ2世は、ユダ王国に政治介入し、ヨアハズを捕えてエジプトに送還してしまいます。そこで兄でありながら疎外されていたヨヤキムは国民に重税を課し、集めた貢物でネコ2世に取り入り、王位についたのです。ヨヤキム王はエジプトに忠誠を誓いながら、一方、国内では暴君として振る舞っていました。

ところが、ネブカドネツアル王がエジプト軍を破ってからはパレスチナの支配権は新バビロニア帝国に移行したため、ユダ王国もその支配下に入ったのでした。興味深いことは、親エジプト派だったヨヤキム王に対してネブカドネツアル王は政治介入をしていないことです。ところが、逆にネコ2世によって大きな打撃を受けると、目先が利くヨヤキム王は新バビロニアへの貢物を停止してしまっただけです。しかし、態勢を立て直したネブカドネツアル王はユダ王国に侵攻して約3カ月間エルサレムを包囲。エルサレムを開城させ、18歳のヨヤキン王は多くの指導者や技術者とともにバビロンに連行したのです。

これが第一回のバビロン捕囚となったのです。ヨヤキム王はその前後に戦死か暗殺されたようです。

ネブカドネツアル王は、傀儡政権としてヨシヤ王の息子のゼデキヤを立てて、ユダをエジプトとの緩衝剤にしたのでした。最後の王となるゼデキヤは頻繁に新バビロニア帝国に使者を送り、また自ら出向いてネブカドネツアル王の機嫌をとったようです。ただ、ユダの国内ではエレミヤのように新バビロニア帝国の支配をイスラエルとユダに対する神の罰として受け入れようとする派閥と、新バビロニア帝国への徹底抗戦を主張する派閥とが対立していました。しかし、次第に新バビロニア帝国の支配からの脱却をめざす周辺国家とともに反旗をひるがえします。これに対するネブカドネツアル王の対応は素早く、すぐにエルサレムは包囲され、前587年

には城壁の一部が破られ、エルサレムは陥落し、ユダは国家としては滅亡したので
す。

列王記に加えてエレミヤ書を読むと、そのあたりの事情がわかります。大国の政
治的な圧力のはざままで、弱小国家ユダ王国はただただ隷属しているだけで、国家の
存亡を防ぐことができるのか？

そういう困難なときにこそ、聖書は神の言を聴くことが大切だと告げています。
誰よりも忠実に主の言葉を聴くべき立場にいたのがヨヤキム王とゼデキヤ王だっ
たのです。

ヨヤキム王は神殿でバルクが読み上げるエレミヤの預言が聞きたくないばかり
に、巻物を裂いて暖炉の火にくべてしまいました。巻物を燃やせば、神の言は消え
てしまうと愚かにも考えたのでしよう。『神の言葉はつながれていません』（Ⅱテモ
テ2章9節）とあるように、書記バルクは預言を苦もなく書き直して、さらに神の
言葉を書き足し王に悔い改めを迫ったのでした。

主はバルクに「読み聞かせる」ことを命じられたので、すべての人が預言をしつ
かりと聴くことになったのでした。しかし、ヨヤキム王は態度を改めずに、耳を塞
いでしまったのです。

ここで聴くということとは、主の言葉をしっかりと受け止め、神の御旨を見極め、
自分自身もよく見つめて、悔い改めることです。

『ユダの家は、わたしがくだそうと考えているすべての災いを聞いて、それぞれ
の悪の道から立ち帰るかもしれない。そうすれば、わたしは彼らの罪と咎を赦す』
（エレミヤ36章3節）とあるように、神はイスラエルの民が自ら悔い改めること
を忍耐強く待っておられるのです。

私たちの信仰においては、まず神の忍耐があるので、私たちが神から離れても、
神の慈愛の中にあることができるのです。

神の言葉を真剣に聴くことは、自分自身の本当の姿を自覚することであり、自分
たちが置かれている客観的な状況を知ることになります。こうして神の言葉は個人
の心に届くのです。

しかし、ヨヤキム王は真実に向きあって生きることに恐れを抱いてしまい、神の
言葉を拒絶してしまったのです。神の言葉を聴くことで、自分自身を変えることが
できなかったのです。

神の言葉によって、私たちは新しい自分に生まれかわることができ
るので、そのことを神は忍耐しながら待っていることに感謝したいと思います。